令和７年度　障害者支援施設地域連携推進会議　議事録

R7.12.3(水)13：00～15：00

参加者
公益社団法人　横浜市身体障害者団体連合会　松田様
横浜市城郷小机地域ケアプラザ所長　宮原様
健康福祉局障害自立支援課　宇野様　石田様　山岸様
横浜市総合リハビリテーションセンター　佐藤経営部長兼総務部長、青木自立支援部長、坂口総務課長、高久総務課員、笹島施設長、岩澤生活支援員
利用者代表、利用者家族代表

1. 開会あいさつ

2. 構成員紹介
松田様：高知から横浜に移り生活をして１０年。地方に行くとなかなかこういった施設がない、あっても実情に伴っていない施設が多い。横浜市はバスや電車等、交通の便が良いところが利点。福祉で働くにあたって現場の声が一番大切と常々思う。
宮原様：隣接する地域の方が利用されている。地域ケアプラザは市内に 146 か所ある。小さなお子様から障害者、高齢者の方まで、いろいろな方が利用し、そして連携もしている。今後も連携していきたい。
宇野様：横浜市の指定管理を担当。よろしくお願いいたします。
山岸様：横浜市の指定管理を担当。よろしくお願いいたします。
石田様：よろしくお願いいたします。

3.施設見学
・3 階（入所・病棟）→1 階（相談・就労）→2 階（受付・リハ科・訓練室）→ラポール

―　休憩：14 時 - 14 時 10 分　―

4.利用者代表あいさつ
（本人）今年 6～10 月まで入所し、入所前後で自分自身に変化があった。のんびりもできたし、職員の方の優しさが良かった。（現在は通所）仕事復帰を目指している。
（家族）入所する前は何ができるのか正直分からなかった。できないだろうと思って手伝っていたが、入所後は「え！こんなこともできるの」と、できることがいろいろあって驚いた。通所も電車・バスを利用して一人で通っている。通所で料理も練習中。すごくありがたい場所として実感している。

5.障害者支援施設についての各種報告

施設概要・地域連携プログラムについて笹島施設長より説明

6.委員の皆様からのご意見・ご要望について

（松田様）施設紹介（10 年前は詳細が分からなかった）が必要な人に必要な情報が届いているか（ミスマッチが起きている）。今はスマホ等で簡単に情報が見られるが、アナログの人が置いていかれている現状。優しい福祉じゃない。アナログのツールも残しておくべき。若い人はスマホ活用ができるが、高齢者等、使い切れない人もいる。取っ掛かりがあれば。

→（笹島施設長）広報が足りていないことは痛感している。必要な人に情報が届いているか、常に模索している。

（松田様）必要性が出てきた時に一貫したもの（情報ツール）がない。それを見たら分かると良い。自分でアンテナを張って把握し、「自分は対象になるのでは」と発信しない限り、向こうから声を掛けられることはない。オープンデイのように催し物があることによって、こういう場所があると知るいい機会に繋がる。

（宮原様）ケアマネの多くの対象者が高齢者である。障害サービス、高齢のサービス、地域連携の知識が、今のケアマネに求められている。地域ではこのような素晴らしいカリキュラムがあり、地域で安心して暮らしていくために、地域のことを知ってもらいたい。ケアプラザでも、ガイドボランティアがどういう仕事なのかを小学校で福祉体験（車いす体験や視覚障害の体験）を通して、地域にも知っていただく機会を作っている。いろいろな分野の人に障害について理解していただき、連携していければと思う。どうしても地域の人は何をやっているのかが分からない。防災訓練の時に寄っていただく等、地域の人にも参加してもらうのも良いと思う。敷居を高く感じてしまうため、当事者の話を聞く機会があると良い。

（松田様）民生委員や PTA の担い手が少ない。民生委員はいろいろな形で情報発信しており、自分の立場を知ってもらおうと呼び掛けをしている。

（宮原様）幸いにもこの地区は（民生委員）埋まっている。

→（笹島施設長）何かあれば出張し、施設紹介をさせていただく。

（松田様）現在、障害者週間であり、横浜そごうでイベントを開催する。ラポールの障害者団体が行くので、局長にラポールを使ってほしいと頼んでいる（イメージキャラクターがいると子どもが寄ってくる）。マスコットがいると興味を持ってくれやすい。リハセンターでもマスコットを作ってアピールしていくと良い。

→（笹島施設長）広報の課題はある。ケアマネの連絡会に参加させていただく等していきたい。

（宇野様）施設が古く、いろいろなところを直している。利用者の方からすると常に何か修繕していると感じると思う。実際の話を池村さんご家族から聞けて良かった。実際に自分が家族になったことを置き換えて考えてみると、いろいろと教えていただけることは嬉しい。

（笹島施設長）回復期を退院すると介護保険に繋がることが大半。介護保険だけでなく、もう一つの選択肢として当センターでやれることを増やしていけると良いと思う。

（宮原様）在宅リハ機能を上手く使っていけると良い。ケアマネにも知っていただければと思

う。

7.閉会のあいさつ
次回の開催：令和 8 年 11～12 月（夏頃を目処に日程調整のご連絡）